

昼の

百けん濠様

風に波立つ百けん濠様でのお食事会に「遊覧船で食べてみたい!!」との声。美味しいお食事を桜吹雪が演出してくれました。マスの天ぷらは初めての方も多く、「花より天ぷらだのお」と笑顔満開でした。



桜満開

笑顔も満開
花より……



好きなもの選べて楽しい〜

居酒屋 アメニティ のんちゃん

ほんとのお店に 来たみたいだ〜

アメリティのフロアは、どこか懐かしくて暖かい、少しレトロな雰囲気漂うお店に変身、一夜限りの「居酒屋 のんちゃん」を開店しました。メニューも盛りだくさん!もつ煮こみ・おでん・肉じゃが・やきとり・だし巻き玉子・各種飲み物などなど、歌あり、笑いあり、心もお腹も大満足となりました。

あ〜今日はみんなとおいしい酒飲めた〜



夜の 百けん濠様

ご家族様と一緒に、思い出に残る時間を過ごして頂きたい…と企画したお花見会食。百けん濠様の窓辺から観る夜桜に、お店の中も笑顔の花が満開でした。お忙しい中、参加してくださいましたご家族様ありがとうございました。



ひまわり

倫理講演会にて

朝礼実演



ひまわりの一日のスタートは活力朝礼から始まります。日頃から取り組んでいる朝礼を倫理講演会にて、発表させていただきました。その実演について鶴岡市倫理法人会会長 佐藤裕宣様(株式会社 佐徳 代表取締役)より御社従業員の方々の感想を含めお言葉を頂戴いたしましたので、ご紹介いたします。

「(株)ひまわりさんの朝礼実演、大変素晴らしかったです。姿勢、目線、声の出し方、息の合わせ方、どれを取ってもあそこまで合わせられるようになるまでには大変な努力があったのだらうと思いました。あのよう朝礼で一日をスタート出来れば心一つに仕事出来るのではないかと思います。朝礼自体はお客様から見えないし、社是・社訓もお客様には見えませんが、しかしながらそういったところに力を入れることが出来る企業は、その商品やサービスを通してお客様に伝わるのではないかと思います。世の中はすごいスピードで変わって行っていますが、いつの時代も変わってはいけないものを感じました。最後に伊藤社長の強い信念に感動いたしました。」



ひまわり

観桜会

温海温泉の桜のつぼみが膨らみ始めた頃、「万国屋」様にてひまわり観桜会を開催しました。豪華賞品獲得を目指して「何を食べたでしょうか？」ゲームや腕相撲大会は、今年も大盛り上がり。二次会のカラオケでは、皆さんの弾けた笑顔もたくさん見られ、老若男女問わず、終始笑顔に包まれたひと時となりました。



株式会社ひまわり

☎0235-25-5145 www.himawari-s.co.jp

〒997-0834 山形県鶴岡市稲生一丁目3-5 アメニティハウスひまわり2F



居宅介護支援事業所・訪問介護事業所

アメニティハウスひまわり
グループホームひまわり

☎0235-25-5145
鶴岡市稲生一丁目3-5



エタニティハウスひまわり

☎0235-25-5160
デイサービス いいずん

☎0235-64-0604
鶴岡市稲生一丁目3-45



デイサービス

アブラ

☎0235-64-0302
鶴岡市稲生一丁目4-53



心に残るお話

これは、香川県さぬき市にある介護シューズメーカー、徳武産業株式会社へ届けられたお客様からのお礼の手紙です。

「ありがとう」を伝えたくて。

数年前の冬のある日のこと。父が顔を血まみれにして、散歩から帰って来ました。散歩中、アスファルトの道路で手をつかずに顔面から転んでしまったようです。父は47歳のときに、脳梗塞で倒れて以来、言葉がしゃべれなくなり右半身には麻痺がありました。日に日に衰えていく身体を、少しでも鍛えようと思ったのか、杖をついて右足を引きずりながら近所の神社へのお参りを日課にしていました。傷だらけの顔の父に、私は怒り気味に事情を尋ねました。

「なんで転んだんや。満足に歩けんの、ふらふら散歩に行くからや。家でじっとしとれ」

「なんにもないけどころんだ。父は脳梗塞の後遺症で言葉がしゃべれないため、50音や数字が書かれたキーボードをひとつ文字ずつ指で押して発せられる機械の音色で会話をしていました。」

「何も無いところで転ぶハズないやろが」

くつがひっかかった。

「靴が引掛かった？靴のせいにするなよ。もう足腰が弱つとるんやから、散歩は車イスで行ってくれ。これ以上、家族に心配させんなよ」

いやや。じぶんであるく。

父は、凍るようなアスファルトの田舎道で転び、自分で起き上がることもできずに、うつ伏せでずっと助けを待っていたそうです。

自分の父親が、この寒空の下で倒れたまま身動きできない姿を想像すると、涙が出そうになりました。その後も父は、私がいくら止めても散歩をやめようとしませんでした。

それから1か月。

父がおでこに紫色の大きなコブを作って帰って来ました。今度は全身がドロだらけ。つまずいた拍子に田んぼへ転がり落ちてしまったそうです。さすがに私も、「ええ加減にせえ！もう歩いて外に出るなよ！」と怒鳴ってしまいました。

数日後—

母が友人から教えてもらったという、変わったシューズを買って帰りました。

一般的なものとは違う、ちょっと地味で見たことのないシューズです。

父はすぐにそのシューズを履いてみました。

それは、あらゆるところに工夫が施されていて、右手が不自由な父でも自分で脱ぎ履きができます。

「最近では便利な靴があるもんやな」

父はその風変わりなシューズで、懲りもせずに出掛けて行きました。

散歩から帰って来てひと言。

もうころばん。

久しぶりに見る父の笑顔でした。

1年半が過ぎ…

突然の危篤から、他界。誤嚥性肺炎でした。

まるで同じ場所で足踏みをしているようにしか見えないほど、ほとんど前に進めなくても、父は亡くなる前日まで、自分の足で歩いていました。

毎日散歩していたために寝たきりになることもなく、父らしい最期を迎えることができたように思います。

今も、父が使っていたキーボードの音声が耳に残っています。

もうころばん。

父の笑顔は御社のあゆみシューズのお陰です。

ありがとうございました。

そして、どんなに苦難にも「前進」することの大切さを教えてくれた父へ。

ありがとう。

2011 徳武産業ムービーライブラリーより引用